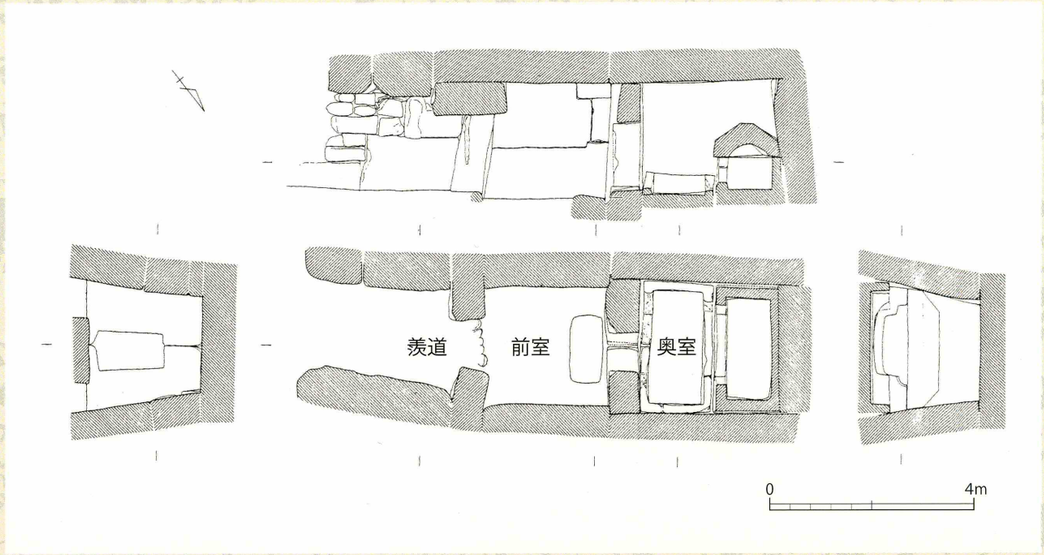


石室実測図

まとめ

横穴式石室の壁や天井にそれぞれ一枚の大きな切石の板材を使う手法は，出雲地方東部で発達した「石棺式石室（せっかんしきせきしつ）」の造り方と共通するところがあります。石室や石棺の形からみて，造られた時期は7世紀前半と推測されます。

上塩冶地蔵山古墳はこの地域で，今市大念寺古墳・上塩冶築山古墳といった古墳に続く大型古墳です。しかし，これ以降は大型の古墳が造られなくなります。新しい時代にふみ出そうとする当時の社会を考えるためにたいへん重要な古墳です。

なお，「地蔵山」の名前は石棺内にまつられたお地蔵さまからつけられたものです。

家形石棺

案内図

お問い合わせ先
出雲市文化財課
（出雲弥生の森博物館内）
TEL 0853-21-6893

國指定史跡

上塩冶地蔵山古墳

かみえんやじぞうやまこふん

所在地：出雲市上塩冶町
1924年（大正13）12月9日指定

上塩冶地蔵山古墳石室と家形石棺

Ancient Tomb
Kamienya-Jizouyama

上盐冶地藏山古坟　가미엔야 지조야마 고분

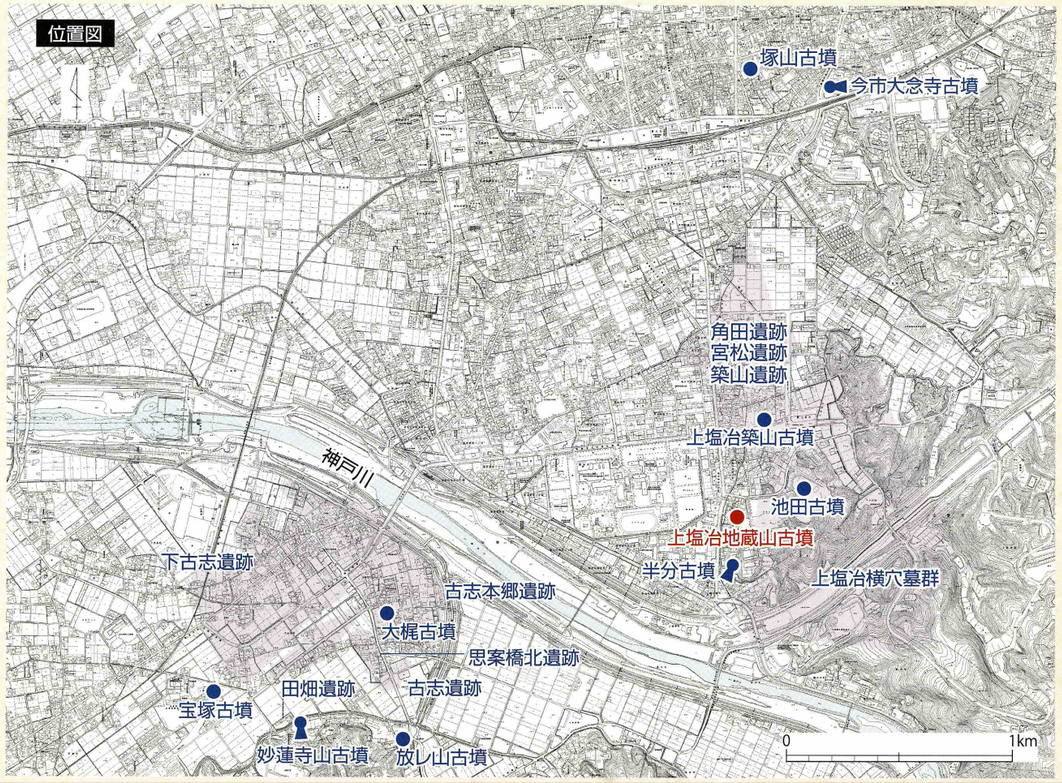
島根県出雲市

位置と環境

上塩冶地蔵山古墳は出雲市街地南部，県立出雲工業高校グランドの西側にあります。

神戸川右岸にある標高およそ15mの低丘陵の位置し，古墳からは出雲平野の西部を見わたすことができます。

付近には，上塩冶築山古墳や今市大念寺古墳をはじめとする出雲西部で最大規模の古墳や，上塩冶築山古墳を中心に築山古墳群を形成している築山遺跡，180基を越える全国有数の横穴墓が密集する上塩冶横穴墓群などの遺跡があります。古墳時代後期（６～７世紀）の出雲を考える上で重要な地域です。

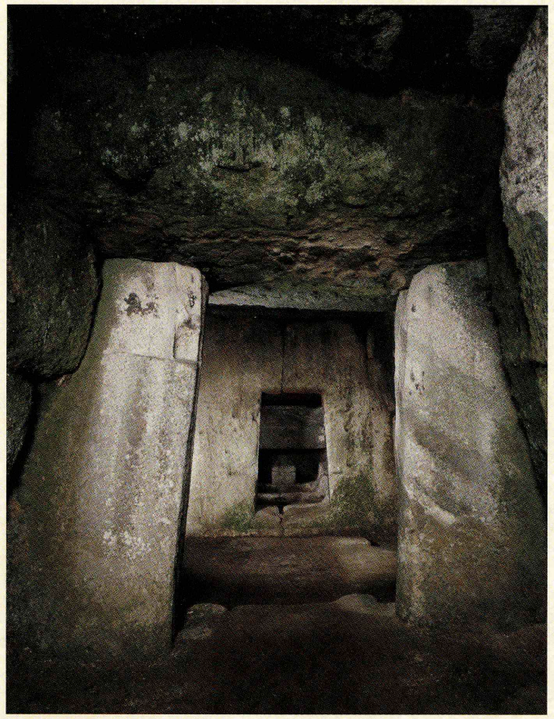


横穴式石室

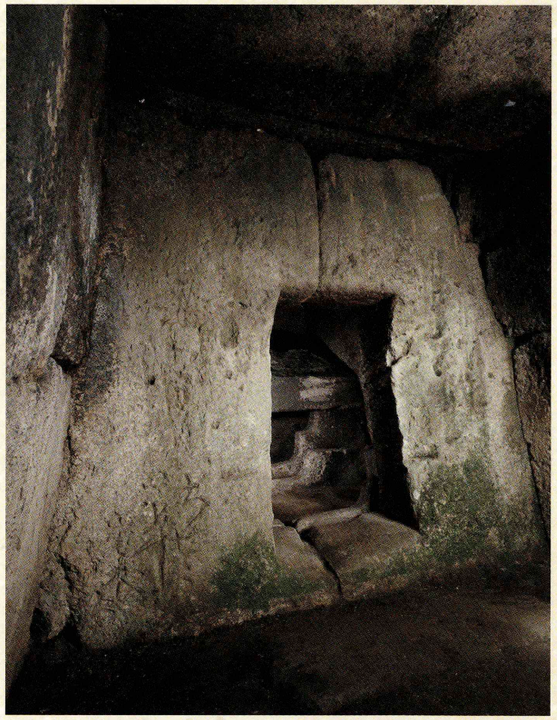
石室は凝灰岩の切石で築かれた横穴式石室で，全長およそ 8mあり南東に開口しています。

奥室・前室・羨道（入口）から構成される複室構造の石室です。奥室は，三方の壁と天井が各々一枚の切石で造られ，前室とを仕切る壁は２枚の板石を組み合わせてその中央に長方形の入口を開けています。前室は大型の切石で組み上げてあり，天井はやはり一枚石です。羨道にも大型の石材が使われています。石材を積み上げるのに「切組み積み」の手法が用いられています。

奥室の床面いっぱいに，奥に横口式家形石棺が，その手前には箱形の石床が置かれています。家形石棺は上塩冶築山古墳の奥にあるものに類似します。なお，副葬品などは知られていません。



羨道から奥室を望む



前室から奥室を望む

墳　丘

墳丘は畑地の開墾などによって形が変わっていますが，現状では径が約15m，高さ５ｍほどの円墳状の形をした墳丘が残っています。しかし，本来の墳形や規模についてはわかっていません。

墳丘のようす

	奥 室	前 室	羨道部	石棺	石床
長さ	2.60m	2.35m	2.90m	2.40m	2.40m
幅	2.40m	2.25m	1.90m	0.80m	1.30m
高さ	2.25m	2.15m	1.75m	1.40m	0.50m

石室壁面（切石み積み）